



<長崎派遣事業の目的>

本事業は、非核平和都市であることを宣言するいわき市の子どもたちが、核兵器の廃絶と平和を希求する気持ちを高めるとともに、ふるさとの復興・創生を担う人材となる意欲と実践力を身に付けることを目的としています。平成30年度は、29名の中学生を長崎市に派遣しました。青少年ピースフォーラムへの参加をはじめとし、恵の丘長崎原爆ホームの訪問や長崎市内の中学生との交流活動を行いました。

事前学習会



7月の毎週末、いわき市文化センターにおいて、派遣生全員で青少年ピースフォーラムや交流活動への参加に向けた事前学習会を行いました。いわき市・長崎市が考える平和とは何か、自分たちが未来に向けてできることは何かについて徹底的に協議し、プレゼンテーションの資料作成を発表直前まで行いました。



青少年ピースフォーラムへの参加



青少年ピースフォーラムの参加生徒全員が前向きな意見を述べていました。「長崎に投下された原爆について、語り部のお話や紙芝居で深く知ることができた。原爆資料館では、原爆によって変形してしまったガラス瓶やたくさんの写真があり、恐ろしさがすごく伝わってきた。交流会では、他の地域の中・高生と平和について話すことができ、平和の大切さと実現することの大変さを思い知らされた。」(生徒感想より)



生徒会長サミット実践報告会



12月22日(土)、市文化センター大ホールにて「いわき生徒会長サミット実践報告会」が市民に向けて行われました。毎年、年間を通じて行っている事業について、体験や活動を通して自分たちが学んだことをグループに分かれて報告しています。長崎市訪問の成果発表については毎年来場者から高い評価を得ています。今年度の長崎市訪問について、子どもたちは次のように振り返っています。「『過去の悲劇を繰り返さない』それが原爆によって命を落とした人々の想いをつなぐことにつながります。…私たちが考える平和とは『過去を乗り越え、手に入れた生活が、ずっと続いていくこと』…過去を生き残った人々から受け継いだ教訓を、今だけにとどめるのではなく、未来へ伝え続けること…すべての方々の想いをつなぎ、福島未来、日本の未来、世界の未来を創造していくことが、私たちの使命です。」

